

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーション・アワード（GIA）2025」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）は6日、ファイナルステージに15組が出場した。上州八木節保存会と桐生八木節朽津会が、威勢よい節回しと軽快な踊りで会場を盛り上げた。GIA歴代受賞者によるミニトークや、タイミー（東京都）の小川嶺社長による特別講演で、来場者は新たな挑戦や起業への意識を高めた。



発表を終え、ステージに勢ぞろいしたファイナリスト

# 独自の視点 世界照準

## ビジネスプラン部門入賞

高校生以下個人の部

高崎高2年

田嶋 龍介さん

パイナップルの葉を使った自然派の日焼け止めの開発を企画、提案した。需要がなく廃棄される葉の成分を紫外線吸収剤に活用し、「人と環境が共存する社会の実現に貢献したい」としている。

### 自然派の日焼け止め



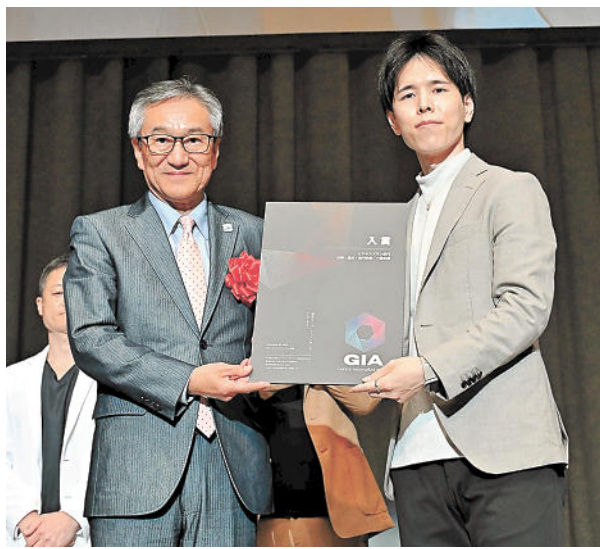
平田郁美県教育長(左)から表彰を受ける田嶋さん

Augmented Communications(オグメンテッドコミュニケーションズ)CEO

五十嵐 俊治さん

外国人材が活躍する場面が増える中、外国人スタッフの接客品質の向上が求められている。ただ、実現には多くの時間とコストがかかるのが現状で、解決に向けて開発したのが音声対話型OJT支援ソフトウェアアシスタント「ナレッジボイス」だ。

### 人材育成に音声対話



県中小企業団体中央会の大竹良明会長(左)から表彰を受ける五十嵐さん

大学・短大・専門学校・一般の部

群馬大病院耳鼻咽喉科准教授

茂木 雅臣さん

大賞

スマートグラスを使った補聴器のトレーニングを提案し、大賞に輝いた茂木さん



医師として難聴や中耳炎治療に携わる。自身も先天性難聴で補聴器を着用し、同じ悩みを持つ患者と向き合ってきた。聞こえの改善に効果の高い補聴器だが、普及率は15%ほど。慣れるまでに時間がかかり、使用を諦める患者も多い。「こんなにつらいものを使えるか」と言われ、傷ついた経験もあった。トレーニングを続けやすしたいと考えたのが「スマートグラス」への活用だ。拡張現実(AR)空間でアバターと会話し、聞き取り精度を評価。周囲の音量や話す人数を調整できる。病院に通わずに練習でき、人工知能(AI)との会話のため聞き間違いも助すかしくない。従来のイメージを刷新したいと、補聴器も眼鏡型を検討している。多くの人に思いを伝えられたことを喜び、「補聴器が眼鏡と同じ感覚で受け入れられる社会にしていきたい」。来年は臨床研究を開始予定で、事業化に向けて歩みを進める。

## 補聴器トレARで楽に

君子es  
(高崎高2年)

竹淵 遙希さん  
森戸 士雄さん

高校生以下団体の部

相談を受けた時、気持ちをつまづかえられなかった経験から、応援したい人を応援するアプリ「LISTENNAVI(リスナビ)」を開発した。ワークショップに参加し、相手の学びや挑戦を応援する「エンパワ―」「思考整理」「情報提供」の三つの関わり方を学んだ。

### AI活用し相談、応援



群馬経済同友会の坂本正堂代表幹事(左)から表彰を受ける竹淵さん

PHOSLOOP(フォスループ)社長

青柳 拓也さん

ベンチャー部門入賞

### 豚ふん堆肥を資源に

農作物の肥料や飼料に欠かせないリンを抽出できるリンを抽出したりして資源の豚ふん堆肥に着目し、新たな資源の循環を考案した。「養豚や農業が盛んな群馬だからこそ、全国に先駆け循環モデルを作りたい」と力を込める。



県商工会議所連合会の金子昌彦会長(左)から表彰を受ける青柳さん

伊勢崎高2年

RAHMAN SAMEEHAさん  
(ラハマン・サミハ)

奨励賞

「ハラール」キッチンカー イスラム教の戒律「ハラール」のつとめた食材で作った「ハラール食」を提供するキッチンカーの店舗を提案した。本県で生活するイスラム教徒の需要に応えたいとする。



慶応大の国領二郎名誉教授(左)から表彰を受けるラハマンさん

「優しいの擦れ違い」を食のファストフードチェーンを作りたい」と目標を掲げる。多彩なメニューを上げる。り扱い、高校や大学への出店を目指す。将来は「国内初のハラール食のファストフードチェーンを作りたい」と目標を掲げる。